

衣笠ホーム

“永眠者記念会”

衣笠ホームでは、かつてホームで生活を共にされた方々を偲び、毎年「永眠者記念会」を実施しています。今年も、11月20日（土）、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン（Zoom）配信で行い、6家族10名以上のご参加をいただきました。（ホームは職員のみでの参加でした）

記念会では、賛美歌312番の後、聖書朗読（新約聖書ヘブライ人への手紙）、阿部ホーム長より祈禱、衣笠病院チャプレン室室長 大野高志牧師よりお話がありました。



礼拝の最後には、最近の1年間にお亡くなりになられた方、開設以来にお亡くなりになられた方（5年毎）のお名前が相談部 渡邊主任より読み上げられました。



“大野牧師からのメッセージ”

今、「グリーフケア」という言葉がよく聞かれています。グリーフケアは悲しむ人を支えるケアとされており、象徴的に「リ・メンバリング」という言葉が使われたりします。リ・メンバリングというのは、リ（再び）、メンバリング（仲間になる）という意味です。大切な人たちを見送った私たち、目には見えないけど、その人を想うことで繋がっている（新しいメンバーになる）ということ。

見えなくなってしまったあの人によって、私たちは今日も生きることができる。愛する人は神様のところにおいて私たちを見守ってくれている。見えないものに目を注ぎ、今日も生かされている、そして、それは生きる希望となる。

生きているものたち、すでに旅立っていかれた方たちが共にある衣笠ホームでありたいと思います。



衣笠病院チャプレン室室長
大野 高志牧師

～ご家族よりいただいたお言葉～

- 「まだ哀しみはいえませんが、今日、このような礼拝に参加できて良かったです。」
- 「亡くなった後も大切に想ってくださいることに感謝です。」
- 「衣笠ホームで過ごせたことが、良かったですと思います。」

衣笠ホームでお過ごしいただきました大切な方々との思い出を振り返り、ご家族の皆さまと偲ぶことができましたことに、心より感謝いたします。ありがとうございました。

